

楷

第四十七号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI

No.47

2008

OCTOBER

<写真>

べいか

海ニ生ス肉色烏賊ノ如ク
身細ク大サ不過二三寸味ヒ
可賞



「備前国備中国之内領内産物絵図帳」より（岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵）

— 目 次 —

- 大学図書館ってなんだろう（岡田雅夫教育研究環境担当理事）…………… p. 2
- Read Me! Book.3「風景学書評」（環境学研究科 小野芳朗教授）…………… p. 3
- 池田家文庫 岡山後楽園ワークショップ（教育学部学生 嶋澤光騎）…………… p. 4
- 岡山大学公開講座「池田家文庫絵図をもって岡山を歩こう」の開催について
（参考調査係長 北條充敏）…………… p. 6
- 大学図書館をめぐるトピック三題（電子情報係長 竹下啓行）…………… p. 8
- オープンキャンパス報告（学術情報サービス課）…………… p. 9
- 附属図書館リニューアル及び組織の変更（学術情報サービス課）…………… p. 10
- マスカット ……………… p. 12
データベース講習会開催のお知らせ、オリエンテーションガイダンス報告、ほか
- 会議・研修・編集委員会から ……………… p. 20

大学図書館ってなんだろう

岡田 雅夫

毎週末になるとわが町（赤磐市）の図書館に行く。以前は2週間に一度、それも図書館で時間を過ごすというより、何冊かの本を借り出すために訪れたに過ぎない。3冊の本を借り出すとさっさと図書館（というより図書室といった雰囲気施設だった）を後にする。今年6月に、私の町の図書館は新築オープンした。小さな町の図書館だが、時間があれば行ってみたい、そんな雰囲気を持った図書館だ。6月以降は、週末2時間から3時間近く図書館で過ごす。

振り返ってみれば、1974年に岡山大学に赴任して以来、心をうきうきさせて図書館を訪れたことは一度もない。本当のことをいえば、私は20歳を過ぎる頃まで読書とは、したがって図書館とは縁のない人間であった。であってみれば、30年あまりの間、研究書を借り出す——それも年に数回——ほかに図書館に興味を示さなかったとしても不思議はない、といえそうだ。ところが先に記したように、わが町の図書館には、この20数年間少なくとも2、3週間に一度の割合で通い詰めている。もっとも図書館に行つて数時間も過ごすようになったのは新しい図書館になってからのことではあるが。さてこの違いはどこから？

図書館にはサービスの対象からみた場合、次のような種類があるという。第1に国立図書館（全出版物の収集）、第2に公共図書館（地域サービスを目的とする。移動図書館を含む）、第3に大学図書館、第4に学校図書館（小、中、高、養護、盲、聾）、第5に専門図書館（特定の分野に特化した資料収集を行っているもの）、そして最後にその他として病院患者図書館、船員図書館、刑務所図書館、点字図書館のようなもの（Wikipediaより）。大学図書館について特別の説明がないのはどうしたことか分からないが、大学の図書館がこの類型の発想に呪縛されてはいないか？私は密かにそう思っている。わが町の図書館のような公共図書館は、広く地域のサービスを目的としているのに対して、大学図書館は「研究・教育（もちろん高等教育）」に資するもの（大学設置基準第38条に定めるもの）というステロタイプな理解に縛られているのでは、公共図書館の門をくぐってみよう。岡山県立図書館でも、赤磐市立図書館でもいい。それだけでわくわくする。何が違うのか？もちろん財政的な問題があるのはやむを得ない。しかし現在の施設でももっと工夫できるのではないか。岡山大学図書館は地域にも開かれている。しかし、私の見る限り、市民が続々と訪れているようには見えない。

大学図書館の使命を確保した上での話だが、少しでも公共図書館としての色合いをつけることはできないか、それが私の小さな夢である。

（おかだ・まさお 教育研究環境担当理事）

風景学書評 ～Read Me! Book.3～

小野芳朗

風景は見る者によりかわる。時代によっても植生がかわれば随分と印象がかわる。植生がかわるのも実は乱伐して森の種類が遷移する人的影響がほとんどである。こうした物理的变化とは別に、人の見る目がかわっていくこともある。たとえば、岡山の風景も変容した。

岡山後楽園はそれが作られた元禄二年当時は一面水田と畑であった。藩主池田綱政は岡山城の川向この水田地帯を低い竹垣で囲い、御座所の二間三間の小屋（延養亭）から農民が農作業する姿をみて歌を詠んだ。竹垣の向こうに並ぶ操山から芥子山への連山をみては月の出を待った。そして桜と楓を千本植え、春には花を愛でた。

一面に広がっていた田畑は、その後藩財政の都合により面積が小さくなっていく。農作業をやめた空間は芝地になった。明治17年、池田家が融資焦げ付きの穴埋めの資金調達のため岡山県に後楽園を売るまで、後楽園は池田家一族が住んでいた。いわゆる太政官布達による岡山県の公園は、操山東照宮山麓の借楽園（今の東山公園）であった。岡山県に譲渡してから水田は消滅した。耕す動機もないのである。その後も岡山県の県議会が明治40年代まで鶴鳴館で開催されている。明治43年、明治天皇が二度目の行幸で後楽園を大本営にして陸軍大演習が行われた。その年の二年前に岡山大学のある津島地区に陸軍第17師団が設置されたからである。岡山は「軍都」となった。明治天皇が岡山に来たのはそれが初めてではない。明治18年山陽行幸の中途、後楽園に立ち寄った。このことが岡山後楽園をして「日本三名園」のひとつの地位を獲得するきっかけとなる。

池田家は後楽園にまだ足跡を残していた。明治13年に藩祖池田光政を祀る閑谷神社の遥拝所を後楽園に作る（今の駐車場の入り口近辺）。その地は大正8年まで池田家が維持し岡山県に委譲する。後楽園から池田家の影が消えて大正10年、内務省顧問田村剛が後楽園は歴史的庭園で国宝級の価値があると絶賛する。池田家の実体はない。だから歴史を語ることができる。田村は操山連山を「借景」とよび、回遊式庭園と大名庭園の価値を「発見」した。殿様は「借景」と思って操山を眺めていないし、庭園をうろうろ回遊などしない。しかし、田村は新しい言葉を使った。翌年、後楽園は名勝指定される。その後の後楽園の見方は田村の「発見」をもとに様々な言説が覆っている。歴史的眞実、とは別に風景は「発見」もされるし、一方で誤った発見、つまり「捏造」も数多い。

田村剛は昭和になって、国立公園の指定を推進する。瀬戸内海国立公園はわが国最初の国立公園であるが、田村は山に登って風景を「発見」する。それまでは鷺羽山の麓の由加山蓮台寺への門前町田の口は金毘羅さんとの「両参り」の入り口として海から鳥居や港を望む風景が知られていた。田村はそれを山からの眺望の風景という新しい見方で絶賛する。山に登れば瀬戸内の多島と帆船の行き交う風景が美しい。田村は王子が岳にも登った。白石島にも登った。視線は同じである。田村剛は倉敷の出身で第六高等学校から東大の林学へすすみ、林学博士となった人物である。岡山は詳しい。昭和9年最初の国立公園が岡山県を中心とした瀬戸内海にできる。

風景はかわるものである。あるいは時につくられる。また風景を語る言説も様々である。本書はそうした物的構成としての「眺め」から生み出されてきた価値について論じている。風景について論じられてきたことの「分析」がなされている。おりしも観光庁が設置され、観光ブームである。しかし、何を見せられているのか、見て何をおもうのか、混沌としているのも事実である。本書は混沌たる風景と景観のあり方について歴史的背景を明らかにしながら説いているのである。是非手にとって風景を考えてほしい。

（おの・よろろう 環境学研究科教授（10月より京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科））

「池田家文庫 岡山後樂園ワークショップ」

嶋澤光騎

私は教育学部のカリキュラムの一環の「総合演習」を受講するにあたり、このワークショップに参加することとなりました。当初は後樂園に詳しい方から手ほどきをうけ、岡山城及び後樂園の歴史を学ぶと思っていましたが、その実、学生が自身で調べたことをもとにワークショップを企画、構成し、児童・生徒に池田家文庫所蔵の『御後園絵図』を用いて現在の後樂園について学んでもらうことが目的でした。

初回の講義において16名を4名ずつのグループに分け、各グループが一度後樂園を見学することが課されました。私は何の予備知識と目的意識も持たず見学に行き、ただ漠然と、「池田綱政は何と庭好きだったのだろう」という幼稚な感動を抱いたのを覚えています。今思えば、このときにもう少し真剣に細部まで観察し、具体的な疑問を考えておけばよかったと思います。

そしてワークショップのアウトラインを去年のものを参考にしながら受講生みんなで作りました。前回は後樂園内の4カ所をチェックポイントとし、通過するごとに池田家の家紋入りのシールの一部を渡していましたが、あるグループから、「子どもはカード集めが好きなので、そこを利用してはどうか」という意見が挙がり、結果、今年はチェックポイントでシールの代わりにカードを渡すこととなりました。子どもにはチェックポイント到達の証明として現代の写真入りのカード、次の目的地のガイドとして絵図の一部を拡大したカードが渡されます。

他にもたくさんの素晴らしいアイデアが出ました。今回のワークショップでは、それらのアイデアをすべてうまく組み込むことができたと思います。子どもが貰ってうれしいカードを作成する人、時間配分とおもしろさを考えたルートを作る人、御後園絵図とオリジナルの挿絵をのせた地図を作る人、みんながそれぞれ熱心に取り組みました。



そして迎えた当日。万全の準備を整えたという自信とリハーサルなしの一発勝負という不安が半々のなか、ワークショップは快晴の空のもとスタートしました。延養亭にて約4.5mに拡大した御後園絵図をまさしく体感したあと、8グループに分かれ出発しました。子どもたちは思った以上に元気で、引率するはずの大学生が引っ張られるほどでした。暑さをも

のともせず、興味のあるものを発見すると駆け出す姿を見て、子どもの持つ純粋さと力強さを感じました。後樂園を探索したあとの子どもたちは来たときよりも自信にうち溢れていたように思われます。各チェックポイントの説明では下調べが不十分であり、参加者の方々に迷惑をかけることもあり、参加者の方々に迷惑をかけることもあり、日差しが強かったので体調を崩す方がいないか心配でしたが、大きな事故もなく無事に終えることができました。



「来てよかった」、「もっと観てまわりたいかった」など好意的な感想をいただき、私たち学生はこのワークショップをやってよかったと思いました。何よりも自身の成長につながったと思います。

最後に、北條充敏さんをはじめとする附属図書館の方々、山口健二先生、赤木里香子先生より、たくさんのご支援、ご協力をいただいたことをここに述べておきます。ありがとうございました。

(しまざわ・こうき 教育学部学生)

岡山大学公開講座「池田家文庫絵図をもって岡山を歩こう」

(主催：岡山大学附属図書館) の開催について (1)

北 條 充 敏

岡山大学が所蔵する池田家文庫には、江戸時代の岡山城や城下町の様子を描いた絵図(絵地図)を数多く含んでいます。これらの絵図をもっと一般の方々に活用していただきたいと考え、附属図書館では今年度から池田家文庫絵図を題材にした公開講座を開催することにしました。地域の歴史や文化に対するニーズが高まっている状況を踏まえて、この講座では、まち歩きの手法を使って講師と一緒に岡山城、城下町、後楽園、街道を歩いて歴史散策を行います。

本稿では、第1回目(講演会)と第2回目(岡山城)の開催内容等について紹介します。

(第1回目) 日時：平成20年5月24日(土曜日) 13:30-15:00



岡山大学公開講座「池田家文庫絵図をもって岡山を歩こう」(主催：岡山大学附属図書館)の第1回目として、岡山県立図書館で岡山大学社会文化科学研究科の倉地克直教授による講演会を開催しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、定員82名のところ、98名のご来場がありました。

今回の講演会の演題は「池田家文庫城下町絵図について」であり、先生からは「地図や絵図とは何か、現代地図

と絵図との違い、絵図はある目的のために描かれたもので余分な情報は書かれていない、絵図は見る物ではなくてその絵図に込められた目的を理解して読まないといけない、池田家文庫にある城下町絵図は家臣の屋敷割りのために描かれたものなのでそれ以外の情報はない」などのお話がありました。講演会のあと、岡山県立図書館が提供している「横断検索システム」や「デジタル岡山大百科」などのデモンストレーションと2回目以降のまち歩き講座のご案内をして講演会を盛況のうちに終了しました。

講演会終了後には、講演会で紹介された城下町関連の複製絵図を数点展示して、参加者どうしの会話をはずませながら、江戸時代の城下町について約1時間じっくりと楽しんでいただきました。

http://ikedakebunko.blogspot.com/2008/05/blog-post_25.html

(第2回目) 日時 : 平成20年6月7日 (土曜日) 13:30 - 15:00



第2回目は「絵図をもって岡山城を歩こう」という題目で、岡山城をテーマとしました。事前予約制で30名定員のところ39名からの受講予約を受付、そのうち当日は35名の参加がありました。講師には、岡山市教育委員会文化財副専門監の乗岡実氏を迎えて、岡山城の「中の段」にあった表書院の造りや各間取りの利用目的などについて、池田家文庫の絵図『御城内御絵図』元禄13年(1700)をもって岡山城内(内下馬門から中の段)を歩き

ながら、江戸時代の岡山城中の段の様子について解説してもらいました。参加者には教材として、A3用紙にカラー印刷した、同絵図複製資料を配布・お持ち帰りいただきました。

乗岡先生からは、当時の表書院は5つの棟をつないで全体の大きな建物のような構成をしていたこと、表書院の玄関の造りや家臣が登城したときの様子、藩政が実際に行われていた広間、台所や表書院への上水路、藩主が執務をしていた部屋、能舞台などについて、分かり易く話をいただきました。公開講座の最後には、国指定重要文化財・月見櫓を特別に開けてもらい城郭内と外との比較を一望していただきました。岡山城は内(本段、中の段)には優美・風靡な姿を醸し出している反面、外に対しては外敵がはいらぬように軍事的な風貌をしていることが月見櫓からの眺めからうかがえました。

http://ikedakebunko.blogspot.com/2008/06/blog-post_07.html

受講者の方からは「絵図資料をこのように印刷してもらえて大変嬉しい。これからもこのような機会をたくさん作ってもらいたい」のご意見をいただきました。まだまだ進行においては問題点も多々ありますが、附属図書館として一般の方が池田家文庫絵図に触れ合うことのできる機会を考えていきたいと存じます。

第3回目から第5回目は、10月から11月に城下町・岡山後樂園・山陽道(京橋～岡山駅)を開催いたしますので、次号で紹介いたします。

(ほうじょう・みつとし 参考調査係長)

大学図書館をめぐるトピック三題

～ 電子ジャーナル、リポジトリ、ラーニングコモンズ ～

竹下啓行

去る7月7日(月)～18日(金)に「平成20年度大学図書館職員長期研修」(主催:筑波大学)に参加しました。同研修は大学図書館の中堅職員を対象に、学術情報に関する最新の知識や、図書館経営・情報サービスの在り方について、再教育を行うことを目的に毎年開催されているものです。

本稿では、同研修で話題に上った事柄を中心に、現在の大学図書館をめぐるいくつかのトピックについて、私見と本学の現況を交えてご案内いたします。大学図書館の現況について多少なりともご関心をお寄せいただければ幸いです。

■ 電子ジャーナル : その興隆と予算の逼迫

学術雑誌をインターネット上で利用する電子ジャーナルと呼ばれるサービスがあります。国内の大学ではここ数年急速に電子ジャーナルの導入が進み、紙媒体の雑誌を利用していた時代とは比較にならないほど利便性が向上しています。電子ジャーナルをはじめとする学術雑誌の価格は毎年数パーセントの上昇を続けていますが、国から大学に交付される運営費は毎年1パーセントずつ減額されていますので、各大学とも研究環境整備と予算圧縮の狭間で頭を悩ませています。

本学では現在各研究科代表の先生方によるワーキンググループを組織し、今後の電子ジャーナル整備について検討を続けているところです。

■ リポジトリ : 情報発信への取り組み

大学からの情報発信については以前から声高に叫ばれていますが、大学図書館は現在「リポジトリ」という事業でその一翼を担おうとしています。「リポジトリ」とは、当該機関の成員による研究成果(研究紀要、学術雑誌発表論文、学位論文、報告書など)を機関内サーバに蓄積し、インターネットを通じて無料で公開する事業です。「リポジトリ」という名称の馴染みにくさもあり、認知度は今一つのようなのですが、機関単位で研究成果を一元的に管理できる点、従来当該機関内に埋もれていた研究成果をネット上に流通させる点においては一定の価値があるとおもわれます。

本学では「岡山大学学術成果リポジトリ」(<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/eprints/index.html>)として平成18年度に一般公開を開始しています。あなたがGoogleで見つけた本学紀要の論文、その論文はもしかするとこのリポジトリに掲載されたものかもしれません。

■ ラーニングコモンズ : 「場」としての再評価

上述のようにインターネット上のデジタル情報に注目が集まる一方で、学習の「場」として図書館を再評価する動きもあります。代表的な取組のひとつが「ラーニングコモンズ」と呼ばれるもので、館内に設けたインターネット・パソコンなどのITツール、図書・雑誌などの資料、人的援助を一体的に利用して学習できるスペースのことを指します。ここ数年国内の大学図書館でも導入の動きが広がっていますが、欧米の「ラーニングコモンズ」では一般にTAを中心とした人的援助が用意されているのに対し、国内のそれは人的援助に欠ける場合が多く、課題とされています。

本学においてもグループ学習室、インターネット・パソコン、アメニティコーナーなどを導入して学習環境の整備に注力していますが、それらを一体的に提示するには至っていません。内外の動向を注視しつつ学習環境の更なる改善に努めていく必要があります。

(たけした・ひろゆき 電子情報係長)

オープンキャンパス報告

学術情報サービス課

8月1日(土)、4日(月)～6日(水)のオープンキャンパスに合わせ、附属図書館中央図書館では独自企画で高校生を迎えました。

イベント	場 所	内 容
教科書展示	玄関前	シラバスに掲載されている、1年生が授業で使っている教科書を展示。
貸出ランキング上位本展示	アメニティコーナー	平成20年1月～6月に貸出された図書のうち、分野別に30位までから取り出した20点を展示。 全分野を通しての最多貸出図書は「バーロー物理化学問題の解き方 第6版」で、37回。
時計塔ツアー	時計塔	リニューアルした時計塔の最上階からキャンパスを見る。
図書館古写真	新聞コーナー前	昭和29年頃と現在の、図書館や津島キャンパスの写真(複製)を掲示。

大学の総合受付で図書館企画のチラシも一緒に配布してもらったためPRがよく行き届き、多くの高校生や保護者に来ていただきました。

時計塔ツアーでは、高いところからキャンパスを見ていただき、学部の建物の説明をすると、「広いですね。」「一度登って見たかったんです。」などの感想が出ていました。

4日間の入場者合計	1228名
時計塔ツアー参加者数	83名



図書館玄関前での教科書展示の様子

附属図書館リニューアル及び組織の変更

学術情報サービス課

附属図書館リニューアル

岡山大学附属図書館中央図書館では、平成19年度12月から書庫及び図書館時計塔の耐震工事が実施された。この耐震工事を機会に時計塔の外見もリニューアルされ平成20年4月14日に竣工した。新時計塔は白基調とされ、時計部分が発光ダイオード製(LED)となり夜間でも視認できるように、また、時計塔中央部には大学マークも入り大学のシンボルとしてふさわしい外観となった。



これに併せて中央部分のトイレも改修された。

*リニューアルされた中央図書館外観



*統合した鹿田分館事務室

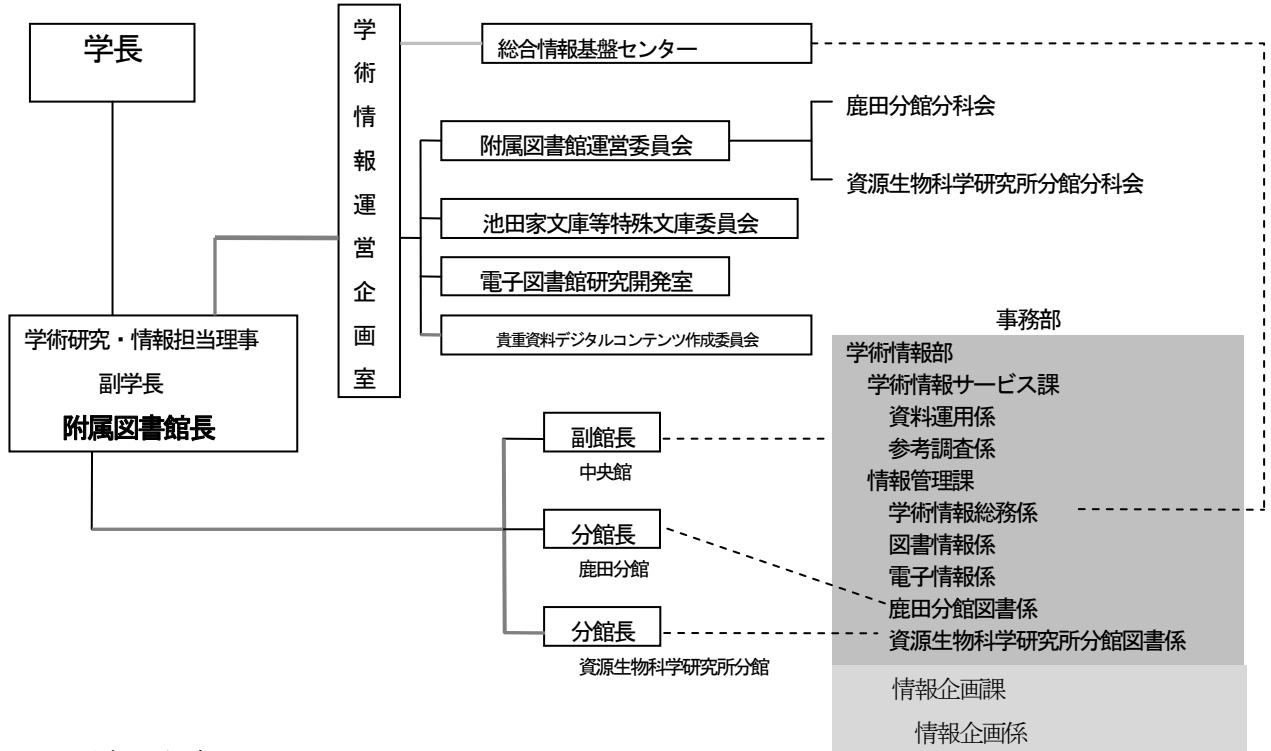
鹿田分館でもより快適な利用者環境の提供を目指し、2カ所に分かれていた事務室を1階に統合することで利便性の向上を図るとともに、旧2階事務室は、利用者がグループで学習できるようなスペースにする予定となっている。

中央図書館ではこの外観にふさわしい学習の場となるため平成20年度から開館時間を延長し、授業期の平日は23時まで、土・日曜は18時まで、休業日も平日は19時まで開館することとし、サークル活動後や夜間主コース授業終了後等の利便性向上をさらに図っている。

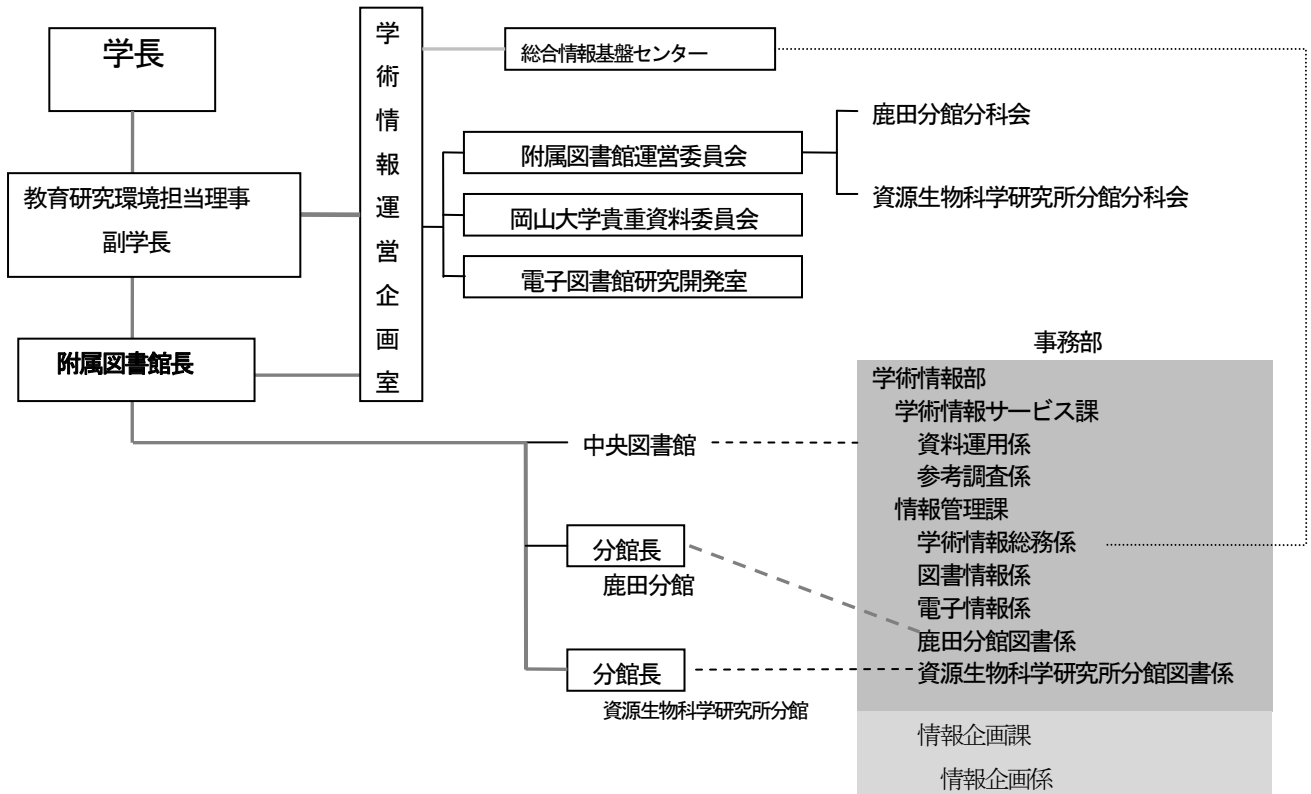
事務組織変更

岡山大学役員の変更があり、附属図書館(学術情報部)は学術研究・情報担当理事配下から教育研究環境担当理事配下となった。また、附属図書館長も理事兼任だったが、専任となり、副館長職は廃止された。

附属図書館組織及び委員会図
平成 19 年度



平成 20 年度



マスカット

データベース講習会開催のお知らせ

秋季も引き続きデータベース講習会を開催します。提供各社より講師を招いての講習会や、英語での講習会もございます。参加ご希望の方はお早めにお申し込みください。多数のご参加をお待ちしております。

津島地区	日本語	OPAC 【図書館の本や雑誌を探してみよう！】 ① 10/7 10:20-11:50 ② 10/15 12:40-14:10
		CiNii 【日本語の論文を探してみよう！】 ① 10/7 12:40-14:10 ② 10/15 10:20-11:50
		新聞記事 【新聞記事を探してみよう】 ① 10/8 12:40-14:10 ② 10/17 10:20-11:50
		SciFinder Scholar 【化学系必須！】 10/10 12:40-14:10 ← 理学・工学・薬学・農学部におススメ！
		Web of Science 【オールマイティに引用文献を探すならコレ！】 10/21 12:40-14:10 《 WebEX 》
		Biological Abstracts 【生物学・化学系は要チェック！】 11/4 14:20-15:50 ← 農学・薬学・理学部に！
		INSPEC 【物理学系は外せないデータベース】 11/5 10:20-11:50
		EconLIT & Wilson Business Periodical Index 【経済学系】 11/6 12:40-14:10 ← 経済学部こ！
		PsycINFO 【心理学系は要チェック！】 11/7 12:40-14:10 ← 教育学部・文学部に！
		Lexis.com 【法学・法務系必須！】 11/10 12:40-14:10 ← 法学部・法務研究科所属の方限定！！
		eolESPer 【有価証券】 ① 11/11 10:20-11:50 ② 11/11 12:40-14:10 ← 経済学部こ！
		MLA 【言語学・文学系は要チェック！】 ① 11/12 12:40-14:10 ② 11/12 14:20-15:50 ← 文学部に！
		TKC LEX/DB 【日本語の法律・判例を探すならコレ！】 ① 11/14 12:40-14:10 ② 11/14 14:20-15:50
		電子ジャーナル 【電子ジャーナルを使いこなそう！】 11/19 14:20-15:50
		JSTOR 【人文社会学系全般】 11/25 12:40-14:10
Japan Knowledge 【日本最大の知識探索サイトを使う！】 11/25 14:20-15:50		

Tsushima Campus	English Course	Web of Science 【Citation Index -- for Almighty researchers】 10/21 14:20-15:50 《 WebEX 》
------------------------	----------------	--

<津島地区>のお申し込みは 参考調査係 (内線 津島 7322) または Web から

<Tsushima campus> Apply to Sankou-chousa (reference) section or Application Form

Application Form : <http://carista.lib.okayama-u.ac.jp/literacy/>

*津島地区での開催場所は、附属図書館 中央図書館 新館 1F AV 演習室 です。

鹿田地区	日本語	医中誌 Web 【医学系必須！国内医学文献データベース】 10/15 17:40-19:10
		Web of Science 【オールマイティに引用文献を探すならコレ！】 10/21 17:40-19:10 《 WebEX 》
		Lexis.com 【ニュース・法令・医学などのオンライン情報を検索】 11/10 17:40-19:10
		CINAHL 【看護系データベースはコレ！】 11/12 17:40-19:10
		TKC LEX/DB 【日本語の法律・判例を探すならコレ！】 11/14 17:40-19:10
		電子ジャーナル 【電子ジャーナルを使いこなそう】 11/19 17:40-19:10

<鹿田地区>のお申込先は 鹿田分館図書係 (内線 鹿田 7053)

*鹿田地区での開催場所は、附属図書館 鹿田分館 3F 鹿田情報実習室 1 です。

倉敷地区	日本語	Biological Abstracts 【生物学・化学系は要チェック！】 11/4 10:20-11:50
------	-----	--

<倉敷地区>のお申込先は 資源生物化学研究所分館図書係 (内線 倉敷 1204)

*倉敷地区での開催場所は、現在確定していません。お手数ですが、事前にご確認ください。

春季データベース講習会報告

今年度から通年でデータベース講習会を始めました。今年度前期は 21 種の講習会 (全 44 回) を開催し、272 名の方にご参加いただきました。全 44 回のうち、8 回は WebEX を使った遠隔講習会を実施させていただきました。研究室からでも講習会が受けられるインターネットを使った講習会のシステムです。このシステムを使って現在 63 名の方にご参加いただき、好評をえています。

皆さまの学習や、研究のお手伝いになるよう、後期も様々な講習会を実施していく予定です。ぜひご参加ください。

オリエンテーション・ガイダンス（中央図書館）

本年4~5月に以下のとおり実施し、延べ1,461人の方にご参加いただきました。

<図書館オリエンテーション>

実施日：4月3日～5月28日 実施回数：47回 参加人数：1,440人

内容：中央図書館利用方法・規則の概説、蔵書検索のデモ、館内ツアー

<新任教員向け図書館オリエンテーション>

実施日：4月22日～4月25日 実施回数：2回 参加人数：17人

内容：中央図書館利用方法・規則の概説

<OPACの使い方ガイダンス>

実施日：5月14日～5月28日 実施回数：4回 参加人数：4人

内容：OPACの見方・使い方

オリエンテーション・ガイダンス（鹿田分館）

学部等から依頼を受け、実施しました。

- ・ 医学部保健学科新入生オリエンテーションにて（利用案内）
- ・ 医学部3年次編入生オリエンテーションにて（利用案内・時間外利用講習）
- ・ 順正高等看護専門学校3年生オリエンテーションにて（利用案内・館内ツアー）
- ・ 大学院医歯薬学総合研究科修士課程新入生オリエンテーションにて（利用案内・時間外利用講習）
- ・ 医学部医学科新入生オリエンテーションにて（利用案内）
- ・ 歯学部早期見学実習にて（利用案内・館内ツアー・時間外利用講習）
- ・ 大学院医歯薬学総合研究科博士課程新入生講義にて（文献検索・利用案内・時間外利用講習）

オリエンテーション・ガイダンス（資源生物科学研究所分館）

資源生物科学研究所の新入生（4/11）対象にオリエンテーション、農学部の新入生（4/28、5/7）に対し見学会を実施しました。内容は図書館の概説と利用案内です。案内および展示史料の説明をしました。約150名の方に参加いただきました。

資源生物科学研究所分館一般公開について

本年も2008年5月10日（土）に資源生物科学研究所の一般公開が行われました。今回で7回目となりました。研究所で行われている研究内容を紹介するものです。一日中雨が降りましたが、402人の方が来所されました。

展示ブースでは各グループが思考を凝らし、楽しんで研究内容を学べるよう工夫されていました。また、屋上緑化の見学、大学院進学相談などが行われました。

図書館でも、江戸から明治にかけて、出版された朝顔にかんする図書など貴重書の一部を展示しました。また、クイズラリーの問題も展示物から出されていて、約200名の方が来館されました。花の絵ハガキ、ダーウィン自筆サイン（複製）入りしおりをプレゼントしました。

岡山共同リポジトリ事業について

附属図書館は、岡山地域の学術機関による研究成果の流通に資するため、「岡山共同リポジトリ」事業を推進しています。同事業は附属図書館が用意したサーバ上に県内他機関のリポジトリ（学術情報の保管庫）を構築し、インターネットを通じて無償で公開するものです。去る7月3日（木）には本事業に関する協定締結第1号として環太平洋大学附属図書館と調印を行い、来年春の正式公開を目指しています。

今後は環太平洋大学リポジトリの充実に注力するとともに、参加機関の募集を続け、同事業を通じて岡山地域の学術コミュニティの活性化に貢献していきたいと考えています。

試行サービスについて

図書館資料の利活用を図り、大学外での自主学習の向上・読書推進のため、中央図書館における貸出冊数を10月1日から以下のように変更し、試行します。

現行

	通常貸出	論文貸出
学部生	5冊（雑誌・図書合計）	20冊 卒論貸出（要申請）
大学院生	5冊（雑誌・図書合計）	20冊 修論・博論貸出（要申請）
教職員	30冊（雑誌・図書合計）	
学外者	2冊（雑誌貸出不可）	

変更後

	通常貸出	論文貸出
学部生	10冊 （雑誌・図書合計）	20冊 卒論貸出（要申請）
大学院生	15冊 （雑誌・図書合計）	20冊 修論・博論貸出（要申請）
教職員	30冊（雑誌・図書合計）	
学外者	5冊 （雑誌貸出不可）	

日本と「異国」 ～池田家文庫絵図展～のお知らせ

岡山大学附属図書館と岡山市デジタルミュージアム主催による池田家文庫絵図展、ならびに記念講演会を今年も開催いたします。今回のテーマは、『日本と「異国」』です。

徳川幕府の鎖国政策のために、江戸時代の人々が知ることのできる海外の情報は非常に少なく、自国の地図も正確なものを眼にする機会は限られていました。近世の人々はどのように「異国」のことは見ていたのでしょうか。

今回の展覧会では、絵図約2400点を含む、池田家文庫の歴史資料の中から、「地球全図」(1792)「新刊輿地全図」(1861)といった絵図類に加え、朝鮮通信使の接待に関する岡山藩の記録や、漂流して帰国した人々の記録など、当時の「異国」事情をご紹介します。

開催期間は平成20年11月1日(土)～11月16日(日)の10:00～18:00です。ただし、11月4日・10日はデジタルミュージアム休館のため、展示会も休みになります。

また、11月1日(土)14:00～は『「鎖国」の中の日本と朝鮮』と銘打って、名古屋大学文学部 池内敏教授の講演会が予定されています。

文政2年(1819)に朝鮮半島西部に一艘の薩摩船が漂着しました。この一行25人のなかに薩摩藩の武士3人が含まれており、彼らは朝鮮人官僚と多くの筆談をし、詩文贈答をします。この時の漂流の記録には多くの挿絵があり、当時の朝鮮風俗をうかがえるものも少なくありません。「鎖国」の時代の知られざる日朝文化交流のひとつです。しかし、異文化交流は常に相互理解をとまとうとは限りません。この事件を主な素材に、当時の人々の誤解と理解のさまざまな姿について、また「鎖国」の中の日本と朝鮮についてお話いただきます。

入場料は無料ですので、ぜひご来場ください。

企画展 池田家文庫絵図展

日本と「異国」

2008年
11月1日(土) - 16日(日)

休館日：11月4日(火)、10日(月)

岡山市デジタルミュージアム 4階展示室

開館時間：10時～18時(入館は17時30分まで)

入場料：無料

主催：岡山大学附属図書館、岡山市デジタルミュージアム
後援：岡山県教育委員会、岡山市教育委員会

記念講演会
『「鎖国」の中の日本と朝鮮』
日時：2008年11月1日(土) 14時～16時
場所：岡山市デジタルミュージアム 4階講義室
講師：名古屋大学文学部 教授 池内敏 先生
備考：聴講無料、先着80名まで、予約不要

新刊輿地全図 文久元年(1861)
地球全図 1792
日本輿地図 安永6年(1799)

案内図

岡山大学附属図書館
〒730-8501 岡山県岡山市北区大工町1-1
http://www.lib.okayama-u.ac.jp/ikada/

岡山市デジタルミュージアム
〒730-0801 岡山県岡山市北区大工町1-1 4階
http://www.okayama-digital-museum.jp/

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

〈中央図書館〉※教員業績コーナー（本館1階）に配架

- 穂田定樹 [名誉教授]
古記録資料の敬語の研究——清文堂出版, 2008 (815.8/A)
- 稲村秀一 [大学院社会文化学研究科]
実存的人間学の源流と展開 (岡山大学文学部研究叢書 27)
——岡山大学文学部, 2008 (114.5/I)
- 内田和子 [大学院社会文化学研究科]
ため池：その多面的機能と活用——農林統計協会, 2008 (614.6/U)
- 小川秀樹 [国際センター]
F1 一瞬の死：F1 専属医が見た生と死の軌跡 (監訳) ——WAVE 出版, 1997 (788.7/W)
イスラエル・パレスチナ聖地紀行：車で巡る歴史の宝庫——連合出版, 2000 (292.79/O)
あなたも国際貢献の主役になれる：いま NGO にできること
——日本経済新聞社, 2001 (329.36/O)
学術研究者になるには：人文・社会科学系 (編著) (なるには Books 27)
——ぺりかん社, 2003 (002/O)
- 沖 陽子 [大学院環境学研究科]
児島湖読本：どっこい生きている児島湖 (共著)
——中国四国農政局児島湖沿岸農地防災事業所, 2006 (519.4/K)
- 神立春樹 [名誉教授]
変貌過程における児島湾干拓地農業：1970 年代の農村調査記録
——岡山近代史研究会, 2007 (612.175/K)
高知県の産業構造・地域構成と地域住民生活：
産業革命期県統計書・村是調査書による検討 (共著) ——岡山近代史研究会, 2008 (602.184/K)
- 河本 修 [大学院自然科学研究科]
論文要旨にみる英語科学論文の基本表現——朝倉書店, 2007 (407/K)
- 佐川英治 [大学院社会文化研究科]
洛陽の歴史と文学 (共著) (岡山大学文学部プロジェクト研究報告書 10)
——岡山大学文学部, 2008 (222.14/R)
- 沢山美果子 [教養教育科目担当]
江戸の捨て子たち：その肖像 (歴史教育ライブラリー 255) ——吉川弘文館, 2008 (369.44/S)
- 高橋文博 [大学院社会文化学研究科]
日本人の心の教育：道徳の心培わずして国は栄えず (共著)
——官公庁文献研究会, 2008 (150.7/N)
- 高橋祐介 [大学院法務研究科]
アメリカ・パートナーシップ所得課税の構造と問題——清文社, 2008 (345.33/T)
ベーシック税法 (共著) (有斐閣アルマ Basic) ——有斐閣, 2008 (345.12/B)

竹宮宏和 [名誉教授]

Environmental vibration : prediction, monitoring and evaluation : proceeding of the International Seminar on Environmental Vibration, Hangzhou, China, 16-18 October ,2003 (共著)
——人民交通出版社, 2003 (519/E)

Environmental vibrations : prediction, monitoring, mitigation and evaluation (ISEV 2005) : proceedings of the 2nd International Symposium on Environmental Vibrations - prediction, monitoring, mitigation and evaluation (ISEV 2005), Okayama, Japan, 20-22 September, 2005 (共著)
——Taylor & Francis, c2005 (519/E)

田中 勝 [名誉教授]

廃棄物の資源化と減量化作戦 : ごみ問題解決へのアプローチ (共著)
——環境公害新聞社, 1980 (518.523/H)

廃棄物用語集 (共著) ——中央法規出版, 1983 (S519/H)

現代のごみ問題 技術編 (共著) ——中央法規出版, 1990 (519.5/G)

医療廃棄物 : その適正処理を考える (編著) ——中央法規出版, 1990 (519.5/I)

スタンダード感染症廃棄物処理ハンドブック : 医療現場ですぐ使える (共著)
——日本医療企画, 1993 (498.16/H)

処理施設の安全衛生対策 (共著) (ブックレット : 自治体労働と安全衛生 15)
——労働基準調査会, 1993 (518.54/T)

廃棄物学入門——中央法規出版, 1993 (519.7/T)

地球を救うリサイクル——清文社, 1996 (518.5/T)

日米欧の産業廃棄物処理 : 各国の制度と実際 (共著) ——ぎょうせい, 1996 (519.7/T)

廃棄物学概論 (編著) ——日本環境測定分析協会, 1998 (518.52/T)

スタンダード感染性廃棄物処理ハンドブック : 医療現場ですぐ使える 改訂新版 (共著)
——日本医療企画, 2000 (498.16/S)

食生活をめぐる諸問題 (共著) (放送大学教材) ——放送大学教育振興会, 2000 (498.5/T)

循環型社会構築への戦略 : 21 世紀の環境と都市代謝システムを考える (共著)
——中央法規出版, 2002 (519/J)

新・廃棄物学入門——中央法規出版, 2005 (519.7/T)

戦略的マネジメントを探る (編著) (医療廃棄物白書 2007) ——自由工房, 2007 (519.7/T)

循環型社会への処方箋 : 資源循環と廃棄物マネジメント (編著)
——中央法規出版, 2007 (519/T)

循環型社会評価手法の基礎知識 (編著) ——技報堂出版, 2007 (519/J)

戦略的廃棄物マネジメント : 循環型社会への挑戦 (編著)
——岡山大学出版会, 2008 (518.523/T)

田中善正 [名誉教授]

日本の食用作物——大学教育出版, 2007 (616/T)

永瀬春男 [大学院社会文化学研究科]

シュンボンシオン : 高岡幸一教授退職記念論文集 (共著) ——朝日出版社, 2006 (804/S)

テキストの生理学 (共著) ——朝日出版社, 2008 (950.4/T)

- 難波淳子 [教養教育科目担当]
日本人女性の結婚と成熟——風間書房, 2006 (143.5/N)
- 本水昌二 [大学院自然科学研究科]
分析化学 (共著) (基礎教育) ——東京教学社, 1995 (433/B)
基礎教育分析化学演習 (共著) ——東京教学社, 2001 (433/K)
環境測定のための最新分析技術 (監修) ——シーエムシー出版, 2005 (519.15/K)
分析化学実験 (共著) (基礎教育シリーズ) ——東京教学社, 2008 (433/B)
- 行安 茂 [名誉教授]
近代日本の思想家とイギリス理想主義——北樹出版, 2007 (133.4/G)

〈鹿田分館〉

- 平松祐司 [大学院医歯薬学総合研究科]
子宮筋腫の臨床 (編集) ——メジカルビュー社, 2008 (495.4/HI)

(敬称略五十音順)

会議

◆学外

- 20.4.17 第56回中国四国地区大学図書館協議会総会
(於 愛媛県県民文化会館)
・中国四国地区 NACISIS-CAT/ILL 地域講習会について、その他
- 4.18 第35回国立大学図書館協会中国四国地区協会総会
(於 愛媛県県民文化会館)
・資格認定要領等の一部改訂について、その他
- 5.1 学術情報流通改革シンポジウム(於 東京大学)
・学術情報改革を目指して
～電子ジャーナルが読めなくなる!?～
- 5.20 平成20年度岡山県図書館協会第1回理事会
(於 岡山県立図書館)
・平成19年度事業報告・収支決算報告について
- 5.26 平成20年度岡山県図書館協会総会
(於 岡山県立図書館)
・平成19年度事業報告・収支決算報告について
- 5.29～30 第79回 NPO 法人日本医学図書館協会総会
(於 京王プラザホテル札幌)
・平成19年度事業報告・収支決算報告について
- 6.3 岡山県大学図書館協会平成20年度第1回総会
(於 倉敷市立短期大学)
・平成19年度事業報告・決算報告、その他
- 6.19 中国四国地区国立大学学術情報・図書館・情報環境部長等会議
- 6.26 第55回国立大学図書館協会総会
(於 仙台国際センター)
・平成19年度決算報告・同監査報告について、その他

◆学内

- 20.3.10 平成19年度第3回附属図書館運営委員会
- 4.25 平成20年度第1回附属図書館運営委員会
- 4.30 第1回岡山大学貴重資料委員会
- 7.29 平成20年度第2回附属図書館運営委員会

研修

- ・平成20年度漢籍整理長期研修
参加者 岡本 和子 (6.16～9.5)
- ・第4回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー
参加者 本水 昌二、大元 利彦 (6.25)
- ・平成20年度大学図書館職員長期研修
参加者 竹下 啓行 (7.7～7.18)
- ・エルゼビア・ライブラリ・コネクトセミナー2008
参加者 小花 洋一 (7.18)

編集委員会から

今号の記事にありますように、図書館はリニューアルしました。利用者の皆さんはどのように感じますか？また、開館時間が中央図書館では平日 23 時までとなりました。秋の夜長、専門分野の書物と格闘したり、人生や教養について書かれたもの、好きな詩や小説に没頭するのも学生の特権です。図書館で有意義な時間を費やして、学生生活が充実することを館員は願っています。

岡山大学附属図書館報「楷」 No.47 平成20年10月1日

発行人 小花洋一 編集 広報誌編集委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市津島中三丁目1-1 電話 086-252-1111

ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>